

第 15 回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和 5 年 5 月 25 日（木）午前 9 時 30 分～正午
- 2 場所：おだわら市民交流センター UMECO 会議室 2・3
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、渡邊委員、林委員、山崎委員、川口委員、島田委員、倉橋委員
関係者：UMECO 指定管理者 柏木センター長、興津副センター長、桂氏（議題（2）まで）
事務局：澤地課長、八田副課長、岡崎主査

4 資料：

- ・次第
- ・資料 1 提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会実施要領
- ・資料 2-1 令和 4 年度おだわら市民交流センター会議室等の利用状況
- ・資料 2-2 令和 4 年度市民活動団体登録状況内訳
- ・資料 2-3 おだわら市民交流センターへのご意見・ご要望（令和 4 年度）
- ・資料 2-4 令和 4 年度事業一覧と実施時期
- ・資料 2-5 令和 4 年度おだわら市民交流センター UMECO 実施事業結果報告
- ・資料 2-6 おだわら市民交流センター指定管理者自己評価表（令和 4 年度分）
- ・資料 3 令和 4 年度おだわら市民交流センター第三者評価シート
- ・資料 4 協働事業のガイドライン（案）
- ・資料 5 小田原市市民活動推進委員会第 10 期委員会報告書（案）

5 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会について

委員長：議題（1）提案型協働事業・市民活動応援補助金交付事業報告会に入る。本委員会は、議事に関係のある方に出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。本議題に関し、おだわら市民交流センターの指定管理者にお越しいただいている。それでは、事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料 1 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

（発言なし）

■ 議題（2）おだわら市民交流センター UMECO 令和 4 年度事業報告について

委員長：議題（2）おだわら市民交流センター UMECO 令和 4 年度事業報告についてに入る。本議題においても、引き続き指定管理者にご出席いただいている。それでは、指定管理者からご説明をお願いしたい。

（指定管理者 資料 2-1～2-6 に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：講座やイベントについて、ホームページ上ではどのように団体に周知しているのか。

指定管理者：ホームページに事業のバナーを表示しており、そこから入ると案内や結果をご覧いただけるようになっている。また、一部事業についてはフェイスブックに実施状況を掲載している。ホームページについては若干使いにくい状態なので、改善してまいりたい。

委員：年間稼働率について、ピークはいつごろで、どれぐらいだったか。

指定管理者：コロナ直前の令和元年度において、会議室については約 65%であった。活動エリアについては、令和 4 年 4 月から区分変更で席数が減ったため、令和 4 年度の約 30%が最大である。

委員：今回は国際交流に関する説明がなかったが、実施されなかったのか。

指定管理者：私どもで主体的に実施した事業としては、該当がなかった。UMECO に登録のある 2 団体による日本語学校は、活動エリアにおいて定期的に実施されている。

委員：外国籍住民が増加している一方、日本語を教えるボランティアは高齢化等で少なくなって

いる現状である。主体的には取り組めないまでも、UMECOを訪れた外国籍住民にその2団体を案内できると良いし、もし案内等を行っているのであれば報告書に記載した方が良いでしょう。

指定管理者：ネパールの方がUMECOに活動の相談に訪れたことがあり、対応したこともある。

委員：相談事例の中で、NPO法人設立に係る相談が多いと感じた。ニーズがあるということと思うが、関連講座を実施する予定はあるか。

指定管理者：いろいろなニーズがある中で、高齢化で活動を継続できないという声が目立っていると感じている。現時点では検討中だが、ご指摘のテーマも含め、考えてまいりたい。

委員長：国際交流について、実績報告書に追加していただけると、委員会としての評価につなげやすいのでお願いしたい。

指定管理者：承知した。

委員長：利用者のご意見の中で、活動エリアを独占している団体がある、という内容のものがあつた。特定の団体が予約していることは、利用者でもシステム上で分かるのか。

指定管理者：システム上は分からないようになっているが、当日にUMECOに来館されたため、特定の団体と分かったとのことである。なお、独占していた団体は日本語教室であり、生徒数が増えておりやむを得ず予約された状況であつた。現在は、他団体から利用希望があれば譲っていただくようお願いしている。

■ 議題（3）おだわら市民交流センターUMECO第三者評価について

委員長：議題（3）おだわら市民交流センターUMECO第三者評価について、事務局からご説明をお願いしたい。

（事務局 資料3に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か質問はあるか。

（発言なし）

委員長：それでは、これから評価に入る。本日は意見交換を行い、後日、各委員から事務局に評価シートをご提出いただく形であるので、よろしくをお願いしたい。まずは、機能の達成状況について、何か意見等はあるか。

委員：確認したいが、先ほど指定管理者から報告のあつたフォーマットは、市の方で指定しているのか。

事務局：第三者評価の方法を過去の委員会において検討いただく過程で、コンセプトや機能の達成状況が分かるよう、様式が定まった経緯がある。

委員：指定管理者が限られたリソースの中で全ての機能達成に取り組むことは難しいため、メリハリをつけて取り組んでいただく必要があると考えているが、評価に落とし込もうとすると、中程度の点数が多くなる懸念はある。

委員：指定管理者が主体となって取り組むことにこだわる必要はないと感じた。中間支援組織としては、あくまで団体を支援することが重要であるということ、指定管理者が自覚する必要がある。

事務局：指定管理者からは、令和4年度から事業を整理している、と聞いている。相談対応ができる人材育成に注力したり、登録団体の要望を把握するためのアンケートを実施したりと、指定管理者としても改善に取り組んでいることは補足させていただく。

委員長：高過ぎる目標設定は見直す必要があるだろう。施設統合の経緯で国際交流や男女共同参画の要素が残っているため、適度なリソースを割きつつ、継続することになるだろう。

事務局：どういったところに注力すべきか、という観点で評価いただけると、指定管理者としても参考になると考えられる。これまでの評価では、「1つ目のコンセプトにウェイトが置かれ過ぎているため、3つ目のコンセプトにより力を入れてほしい」というコメントをいただく傾向にある。

委員長：第三者評価を開始してからある程度時間が経っているので、より良いフォーマット等について、今後検討する必要があるだろう。

国際交流の関係で、何か事務局から補足はあるか。

事務局：先ほどの議題で、日本語教室を実施する団体に活動エリアを貸し出していることについて

は言及があった。ほかに、UMECO企画展やアクティブサロンの実績一覧から、いくつか関連事業に取り組んでいることはうかがえる。

委員長：続いてコンセプトの達成状況については、意見等はあるか。
(発言なし)

委員長：それでは、本日のご意見等を踏まえ、各委員で評価を実施し、後日事務局にご提出いただき、とりまとめたものを各委員及び正副委員長で確認し、確定とする。

■ 議題（４）諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進について」

委員長：議題（４）諮問事項「市民活動団体の多様な主体との連携の促進について」、①協働事業のガイドライン改定について、事務局からご説明をお願いしたい。
(事務局 資料３に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：資料編について、最終版はカラー印刷にした方が良く考える。

委員長：カラー印刷にしないと良く分からない写真も見受けられる。

事務局：カラー印刷としたい。

委員長：資料編について、本編との区切りが分かりにくいので、目立つようにしていただきたい。

事務局：承知した。

委員長：タイトルについて、「協働事業のガイドライン」で良いか。サブタイトル案などもあれば伺いたい。

委員：ハードルを下げる意味で、「事業」は削除したい。

委員：タイトル及びサブタイトルについて、「市民活動団体と多様な主体のための協働ガイドライン ～力を合わせてより良い小田原に～」というのはいかがでしょうか。本書の目的を端的に表現した。課題解決という言葉もあるかもしれないが、ハードルを下げるため使用を避けている。

委員長：非常に良い案である。協働ガイドラインの文字が小さくなり過ぎないように、レイアウトに注意して進めることとしたい。

委員：表紙の図について、「市民活動団体」「事業者」と続いて「市職員」と、個人を表す単語が混ざっていることが気になった。個人を図に含めるなら、例えば一般市民も追加した方が良いか。

事務局：図については、個人を加えるような意図はなかった。組織を表す単語に統一したい。

委員：「行政」だと漠然としてイメージが湧きにくい印象がある。「行政組織」なども良いかもしれない。

事務局：できるだけ、ハードルを下げられるような表現を検討させていただきたい。

委員長：事業者が協働を検討するくだりで出てくる、「事業」という表現についてはどうか。以前は「本業」となっていた箇所である。

委員：自身の商売というイメージと思うので、特に違和感はない。

委員：営利目的ではない事業というイメージかと思う。職業体験を協働の事例として挙げているが、トラブルに発展することもあると聞いているので、事例を精査した方が良いかもしれない。

委員：福祉団体に優先的に発注しているような事例もある。

委員：発注だけでなく、双方向の関係を例示できると良い。

事務局：ご意見を踏まえ、検討したい。

委員：協働のトラブルに関するコラムがあると、より参考になるのではないかと。具体的なトラブル事例などがあれば参考に伺いたい。

委員：「協働相手と調整する際の留意点」という図表があり、間接的にトラブルを防止するための情報をまとめているので、役立てていただけるのではないかと。

委員：事業者とのトラブルということだと、団体が寄附を求めすぎてしまう事例がある。案を見返すと、事業者との連携事例の最上段に「寄附」とあるため、配慮した方が良い。

委員：CSR等を前面に出した方が、連携につながりやすいかもしれない。

委員：トラブル事例を具体的に上げるのは難しいため、例えば図表の説明の中で「トラブルを避

けるために」といった文言を入れてはどうか。
(異議なし)

■ 議題（５）第10期委員会報告書について

委員長：議題（５）第10期委員会報告書について、事務局からご説明をお願いしたい。
(事務局 資料3に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。
視察報告のページで、「一関市提供資料より」という文言が隠れているので、調整していただきたい。

委員：大項目を表すローマ数字の見出しについて、もっと目立つようにしていただきたい。枠で囲んでも良いと思う。また、諮問内容については、諮問書を抜粋するのではなく、そのまま全体を貼り付けるべきである。

事務局：承知した。

委員長：それでは、事務局において報告書を修正するとともに、令和4年度のUMECOの第三者評価を添付し、各委員及び正副委員長で確認後、最終版とする。

事務局：市長への報告書提出は、7月12日（水）午後4時30分から実施させていただく。当日は、委員長から市長へ報告書提出、委員長より概要説明、各委員より一言ずつご意見等をいただき、懇談という流れとさせていただきたい。

委員長：委員会の会議という扱いではないが、多くの委員にご出席いただきたい。

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。
(事務局 今後の会議日程の確認等)

※今後の会議日程等は次のとおりとする。

第16回委員会（事業報告会）・・・6月10日（土）UMECO

■ 閉会